

代官山スタジオで働くとは

(株)ユーアール

スタジオ事業部

スタジオ事業部の理念

スタジオ事業部経営理念

スタジオ事業部は、ご利用いただくお客様に快適な撮影環境を提供させていただくと共に

- ① スタジオスタッフに、写真撮影に関する「知識」「技術」そして「社会的マナー」が身につくように指導します
- ② 撮影機材、撮影設備を充実させながら、お客様に対して有意義な情報を発信していきます
- ③ スタジオスタッフから多くのカメラマンを育て、写真業界に貢献していきます。

[撮影空間]

- ・ 常に改装・メンテナンス・清掃を行い、快適な撮影空間を提供しています。
- ・ 新たなスタジオを展開し、様々なシチュエーションの撮影を行えるようにしています。

[豊富な照明機材・撮影機材]

- ・ 最新の機材導入をはじめ、豊富な種類の機材をご用意する事で、あらゆるイメージの撮影を行う事が出来るようにしています。

[優秀なサポートスタッフ]

- ・ 写真撮影に関するしっかりとした「知識」と「技術」を身につけたスタッフによって、撮影に来られたお客様が利用して良かったと思っていただける、あらゆるサポートをしています。
- ・ 時代に対応するべくカリキュラムを改定し続ける事によって、スタッフ教育を行っています。
- ・ 単なるサポートスタッフではなく、お客様と一緒に良い撮影が行えるよう一生懸命努力するスタッフを育成しています。
- ・ 多くのプロカメラマンを育て、写真業界に貢献しています。
スタッフ OB 制度を活用し、フリーカメラマンとなったスタッフに活動し易い環境を作りながらバックアップを行っています。

また、撮影オペレート・レタッチをはじめとした「デジタルサポート部門」や、撮影の受注から納品までのワンストップサービスを行う「制作部門」を中心に、お客様に対して有意義で、新しい情報発信をしています。

目次

スタジオ事業部の理念

(P 2)

第一章

— プロカメラマンへの第一歩 —

(P 4 ~ P 7)

- ・ 入社を希望される皆さんへ
- ・ 夢を叶える方法
- ・ 夢を叶える為に必要な事
- ・ プロカメラマンとして求められる事

第二章

— 仕事の中身と意味・目的 —

(P 8 ~ P 1 1)

- ・ 社会人として働くという事
- ・ 接客業の一面
- ・ 雑務の大切さ
- ・ 勤務時間
- ・ テストカリキュラム

第三章

— 代官山スタジオで働くにあたって —

(P 1 2 ~ P 1 7)

- ・ 代官山スタジオとは
- ・ 会社面接にあたって
- ・ 最後に

会社概要

(P 1 8)

会社沿革

(P 1 9)

第一章

— プロカメラマンへの第一歩 —

<入社を希望される皆さんへ>

代官山スタジオは、プロカメラマンの登竜門としての側面を持つ会社です。

その為、毎年多くの入社と多くの卒業が繰り返されています。何の知識も経験も無い状態で入社し、約2年半～3年程度で一人前の経験・技術を持って、更なるステップを目指して卒業していきます。

ですから常に即戦力となるスタッフの養成を必要とし、スタッフ教育・育成を真剣に取り組んでいます。

スタッフの中には途中で働く意志を失ってしまい退職していくスタッフや、卒業してもプロカメラマンとして生活していけないスタッフもいます。正直に言ってしまうと代官山スタジオを一人前になって卒業しても、プロカメラマンとして生活できるスタッフは、一割程度に過ぎません。

では、何故過酷な職場で何年も働きながら、プロカメラマンとしてやっていけないのでしょうか？入社しようとしているみなさんはどうなのでしょう？

どうすればプロカメラマンとしてやっていけるのでしょうか？

代官山スタジオでは、常にそういったスタッフの疑問や、やる気に答えるために機会と機材と空間を提供できる会社である為に努力を続けています。

プロカメラマンとなり、帰ってくる（代官山スタジオを利用する）OBスタッフが、非常に多い事実が、それを裏付けていると思います。

しかし、同時に中途半端な想いややる気では、あっという間に自らをドロップアウトへ追い込んでしまう厳しい職場でもあります。以下の内容をよく見ていただいて自分の心と相談をしてから、入社を決意をされる事を切に願います。

<夢を叶える方法>

「プロカメラマンとして成功したい」

その夢が100%叶う、たった一つの方法があります。「**プロカメラマンになるまで諦めない**」ただそれだけです。

<夢を叶える為に必要な事>

しかし、いくら諦めないで夢を見続けても、それだけでは具体的な形になりません。

夢を叶えるには、その夢が叶うまで不断の努力を続ける事が必要です。

「写真が好きな人」から、「写真で何かをしたい人」もしくは「写真を通じて生活をしたい人」へ変化するに当たって、もっとも大きな違いは**相手がいる**ということです。

「自分の写真を見てくれる人がいる」、「自分の撮った写真にお金を払ってくれる」その為には、相手の存在がなければ成立しません。独り善がりな作品ばかり撮り続けていながら「いつかきっと・・・」なんて夢想しても誰も相手にしてくれません。

相手に自分と自分の写真を伝えなければ（伝わらなければ）認めてもらえる事は有り得ません。

写真に正解はありません。だから努力の仕方はそれぞれです。一枚の写真に対する評価も千差万別です。「すごい！」と言ってくれる人もいれば、同じその写真を「くだらない」と正面きって言われる事もあ

ります。100人いれば間違いなく100通り以上の想いや方法論があります。「良い写真」という評価は、自己満足を除いてしまえば他人が下すものです。

一人一人がその能力を伸ばしていかなければなりません、そういった個人的な取り組みの自由度を個性として勘違いして、必要以上に尊重し自由気儘にしたいのなら、個人的な活動の中で自分の責任に於いてすればよいと思います。

撮影レンタルスタジオで働くスタッフであるという事は、そこで行われる「プロの撮影」のサポートが仕事になります。仕事である以上は、お客様に依頼された事に応えなければなりません。

個人活動の延長線上で一生懸命やっても、結果が出せなければお客様にとってはいい迷惑でしかありません。

求められている事は、「予定された時間内」に「求められたクオリティの出せるライティング」を組み、「撮影現場をトータルで良い状態」にするという結果です。

そして、その結果をお客様に評価していただいて次に繋がります。

「自分なりに精一杯頑張っている」では、通用しません。あくまで結果を求められます。

結果を出す為には、「知識」・「技術」・「意識」が必要です。どれが欠けても満足した結果は得られません。

お客様の求めている事を一緒になって考え、アイデアを出し、共有し合い、現実の形にしていく。

それが出来なければ仕事として成立しないので、そこには個性というばらつきは存在しません。誰もが身につけなければならない事なのです。

<プロカメラマンとして求められる事>

プロの写真の世界は非常にシビアです。

相手(=クライアント)の求める写真が撮れなければ、その写真は何の意味も持ちません。

仕事である以上、「予算」と「納期」と「クオリティ」の全てを求められます。

それに応えられる人だけが仕事を依頼してもらえます。

夢の先であるプロカメラマンになった時に、

- ・ どれだけ良い写真が撮れても、クライアントと楽しく付き合うことが出来なければ、一緒に仕事をしたいと思ってもらえません。
- ・ 無事に撮影が済んだとしても、予算オーバーや納期に間に合わなければ次はありません。
- ・ なんとか言葉でクライアントを説得できても、結果の写真が駄目なら次はありません。
- ・ プロカメラマンの仕事は、写真を撮っている時だけでなく「打ち合わせの時」「撮影の時」「納品の時」すべてが評価の対象になります。
- ・ アシスタントの失敗も含め、すべての責任はカメラマンが負わなければなりません。

クライアントの求める事の意図・イメージを汲み取る事が出来て、
それに合ったモノを自分の写真で表現出来て、
クライアントに対してどういう風に見せて、
どれだけ納得させられるのか、
すべての面でクライアントを満足させる事が出来ないと、他の誰かに仕事を奪われる隙を与えてしまう
だけです。

一人の写真家がどんなに素晴らしい写真を撮っていても、営業（クライアントに見せること）に行かなければ仕事はもらえません。営業にも行かず、個展等の作品発表も行わなければ誰もその人を写真で評価することが出来ません。また、営業に行くにしても、作品発表をするにしても、写真そのものが良くなければ、いかに素晴らしいプレゼンテーションを行っても誰もそれを信じる事が出来ません。よって、仕事も来なく、作品発表も出来ません。

つまり、写真を撮る事と、形にする事と、誰かに見せるという事はワンセットであり全てが必要不可欠であり大切な事だと言えます。そしてこの事は、プロカメラマンという限定した世界だけでなく、写真を何らかのコミュニケーションの手段としたいと考えているのであれば同じ事だと思います。

{写真との付き合いを自己完結でいいと思っているのであれば、その限りではありませんが}

一人の写真家はその人にしか撮れないテイストをどうやって作り上げていくのでしょうか？

スタジオで一人前になって全てのライティング技術、カメラワーク、知識を身につけたとしても、写真のテイストをつくるということに関しては、取るに足りないほんの一部でしかありません。

それ以上に大切なことは、日々どういう風に考え、何を感じ、どうその瞬間を切り取り、それを形に変え、そして出来上がりを人に見せ、更にその評価をもう一度自分にフィードバックさせているかであり、

その繰り返しこそが他の誰かとは違った「テイスト」と呼ばれるものをつくっていく土台になっていきます。

更に、やっとの思いで手に入れたそのテイストも、それがたった一つの表現方法で終わらないように、
どんどん新しい感受性の引出しを増やし、身につけていかないとすぐに煮詰まってしまう。

つまりはワンパターンに陥ってしまう事になります。

第二章

— 仕事の中身と意味・目的 —

<社会人として働くという事>

大半の人が、社会に出る第一歩として、代官山スタジオを選択肢のひとつとして選ばれた事だと思います（もちろんアルバイトで働いた経験を持つ人も多いとは思いますが）。

一人の独立した社会人として、会社組織で働くということは、実に様々な責任や義務が発生します。

撮影助手（アシスタント）というのは、ボランティアでもなく、お手伝いさんでもありません。プロカメラマン、プロのモデルと同じように、その仕事をする事でお金を稼ぐ**プロフェッショナルの仕事**です。自分のおこした結果が、良い意味でも悪い意味でも全て自分自身と代官山スタジオの評価に跳ね返ってきます。一人の遅刻は、そのまま代官山スタジオという会社全体への信用問題につながり、ミスや事故は賠償責任問題へとつながります。

撮影現場を見ることが出来て、勉強できて、お金をもらえる。確かに一面ではおいしい仕事ですが、全く逆に、その恵まれた環境にいられる為にどうしなければならないのか？代官山スタジオはそれぞれのスタッフに対して、常に問い続けてもらいます。

代官山スタジオでは、簡単に人が死んでしまう程の大容量の電気と、危険な機材を数多く取り扱います。そして、多くの制作スタッフと多額の制作費を注ぎ込んだ撮影に携わる非常に責任ある仕事を任せられます。

たかが数百円のフィルム 1 本が数百万円もの（場合によっては、再度撮影する事の出来ない）価値を含んでいます。スタッフ個人の甘えや失敗が一切許されない、厳しい職場環境です。お客様に迷惑をかけることで、経験や勉強をしてもらっては困るのです。

当然の事として、入社してからある程度の期間、あいさつ一つに始まって、それこそ箸の上げ下げに到る位、これまで考えた事も、経験した事も無いような事柄やレベルで指導される（怒られる）覚悟が必要となります。

「誰かの為に何が出来るのか？」これが仕事の基本です。どんな職種でも同じです。

クライアントの為、先輩・上司の為、自分の写真を見てくれる人の為、あなたは何が出来ますか？

相手を理解し、その求められているニーズに応じてこそチャンスが舞い込んできます。

個性的という言葉の甘い響きに惑わされないで下さい。個性的＝自分本位ではありません。

フリーランスのプロカメラマンになるという夢に賭ける事は、博打と同じです。

どうせ写真という芸術に人生を賭けるという博打を打つのなら勝率を高めませんか？

<接客業の一面>

撮影の現場では、クライアントを始め、スタイリスト、ヘアメイク、モデル、アシスタント・・・と実に様々な人と係わり合いながら、一つの目的（結果）に向い、カメラマンが仕上がりの最終責任者となつて、まとめて行かなければなりません。

そこで一番大切なのは、コミュニケーションです。「おはようございます。」から始まって、「**お疲れ様でした。**」まで、**コミュニケーションが全てです。**

代官山スタジオのスタッフもこういったプロフェッショナルのお客様を相手にする仕事である以上、全く同じ緊張感と意識を持って接する事を求められます。

この点で言えば、他のサービス業と何等変わることはありませんが、代官山スタジオで培った接客に対

する意識と技術は、将来の自分へ大きく影響します。

途中で辞めてしまうスタッフの中には、「撮影の勉強に来たのであって、こんなに接客業だと思わなかった。」と言って辞めて行く者もいますが、勘違いも甚だしいことで、例え撮影レンタルスタジオでなくても、他のどんな職種の仕事をしたところで、人と接する仕事＝コミュニケーションが大切＝接客業なのです。

<雑務の大切さ>

代官山スタジオでの仕事内容は、撮影のアシスタントだけではなくありません。代官山スタジオという会社を維持する為のあらゆる事が仕事になります。掃除、洗濯、機材の修理、荷物持ちや車の運転等々、実際の所スタジオワーク以上の雑務があります。これらは、単に面倒くさい雑務で終わるだけではありません。生活の為の基礎訓練となり、それらの雑務を手際よく・うまくこなせるようになる事で、スケジュールの組み立てや、実行能力を高める事につながってきます。

特に、入社してしばらくの間（仕事の雰囲気把握するまで、そして代官山スタジオが保有する全ての機材を覚えるまで）は、スタジオに入っても何の手伝いも出来ないどころか、本人も訳が分からず、お客様にとっても迷惑にしかならないので、雑務をこなしながら、スタジオに入れる自分づくりをして貰う事になります。

<勤務時間>

代官山スタジオの所定勤務時間は9：00～18：00です。しかしながら、撮影スタジオ経営の特殊性からして、この時間で帰宅できるのは、実際のところ少ないのが現実です。

代官山スタジオは、お客様が希望された時間帯のご予約によって成り立っている仕事ですので、24時間年中無休で対応できる体制で臨んでいます。（月に定められた休日は保証されています）このため、早朝出勤や深夜の勤務に就くことも多いかと思えます。特にロケでは早朝出勤が多く、スタジオでは長時間勤務や夜遅くまでの勤務もあります。（全ての超過勤務手当は支給されます）

もちろん時差出勤等の勤務体制により、なるべく働く時間が長くないような配慮も講じていますが、勤務時間の不定期さや拘束時間を考えれば、他の業種に比べて激務といえます。

しかしながら、このような不定期勤務はプロカメラマンでは当たり前の事であり、そういう意味ではプロカメラマンを目指す者にとっては、よい糧となると思えます。（好きな仕事で忙しいという、幸せな状態という言い方も出来ます）

後述のテストカリキュラムと絡めると、入社してから一人前になるまでの一年程度は、プライベートな時間をかなり犠牲にする覚悟を必要とします。特に入社して数ヶ月は、慣れない仕事とテストカリキュラムに追われ、毎日24時近くまで会社にいる事になると思えます。

何の知識も経験も無い人間が、たった数年で一人前の技術を得ようとするのですから、その為の努力は当然の事と思えます。

その為、代官山スタジオでは会社の近くに住むことを奨励しています。また、簡易宿泊設備を準備しており、簡易設備の他に、上京してすぐに安心して働けるように、研修センター（社員寮）も完備しました。

<テストカリキュラム>

代官山スタジオでは、二つの点から、細かいテストカリキュラムを組んでスタッフの技術向上を求めています。

一つは、ご利用されるお客様の要望に答える事の出来るスタッフ育成の為。

一つは、スタッフ自身がプロカメラマンとなろうとしていく過程の中で、必要な最低限の技術をマスターしてもらい、その技術を持って自らの写真を作り上げ、羽ばたいてもらう為です。

カリキュラムとは、入社してから12ヶ月でメインアシスタントに昇格していただくまで、段階を経て詳細に「知識」・「技術」を身につけていただく**取得目標**になります。

定められた期限内に一つ一つ課題をクリアしていく事で、最終的にはメインアシスタントという現場の管理責任者として、お客様のご要望に応え、撮影のサポートを行ってまいります。

将来プロカメラマンとして活躍するに当たって必要、且つ最低限の技術を学ぶ事が出来ますが、本当の実力はメインアシスタントとして一人前のスタジオスタッフになってから身につけていきます。

また、「技術」だけでなくお客様とのコミュニケーション能力についても、しっかりと身につけてまいります。

テストカリキュラムをはじめ、様々な業務方針については、随時変更されます。**時代に合わせるのではなく、半歩先を常に変化し続ける。**それが、代官山スタジオの方針でもあります。

第三章

— 代官山スタジオで働くにあたって —

<代官山スタジオとは>

代官山スタジオは1986年に設立され、その立地条件の良さ、使いやすいサイズのスタジオ、最先端の機材、訓練されたスタジオスタッフ等様々な好条件に恵まれ、常に業界から一目置かれる存在であり続けています。

ファッション業界、音楽業界、広告業界等いろいろなクライアントにご利用頂き、その様々なスタイルの撮影が日々繰り広げられています。

設立されてから既に20年以上も経つ（このレンタルスタジオ業界では比較的古株となった）代官山スタジオが、他の新しいスタジオが沢山ある中で、今日も尚お客様に愛され続けている理由は、

（株）ユーアール スタジオ事業部の理念である、

- 1) お客様の利便性を考え、改装工事やメンテナンス工事を常に行い、毎日館内の掃除を徹底的に行っている。
- 2) 常に最先端、最高の機材を導入し、お客様に新しい表現を提示している。そして、独自フォーマットの在庫管理、修理管理を行っている。
- 3) スタッフ育成にどこのスタジオよりも力を注いでいると自負できる程、充実したカリキュラムを用意し、時代に応じた内容の変更を行っている。

上記以外の事柄も含めた、このような努力を評価していただいていると思います。

特に以下のことは、代官山スタジオがいかにスタッフを大切にしているかの一端をうかがえることと思えます。

代官山スタジオで働くスタッフは「将来のプロカメラマンであって欲しい」との考えから、

- 1) テストカリキュラムをこなしていくことで、代官山スタジオが保有しているカメラ機材、照明機材の貸出しを受けることが出来る。また、基礎訓練期間終了時からは、スタジオの使用も開放され、スタジオで存分に撮影することが出来る。

* 最新のデジタル環境も準備されています。

- 2) 代官山スタジオ館内にて写真展を開くことが出来る。
- 3) 大量の写真集を保有し、更に新規購入を続けている。
- 4) OBカメラマンへの、機材貸出し・スタジオ利用料金の割引サービスがある。

* 要資格。（メインアシスタントになってから15ヶ月以上の勤務）

- 5) OB資格取得者（メインアシスタントになってから15ヶ月以上の勤務）が卒業した際に、希望があれば、代官山ロケーションサービス（代官山スタジオの独立ロケ部門）と契約し、ロケアシスタントをしながらプロカメラマンを目指すことも出来ます。（卒業後いきなりプロカメラマンとして仕事が順調にくるとは限らないので、その保証として利用するスタッフもいます）

代官山スタジオが、これほどまでにスタッフを大切にしているのは、もちろん気持ち良く現場で働いてもらう為であり、また、その能力向上の為でもあります。

しかし、もう一点大切なことは、現在の代官山スタジオの大切な顧客に代官山スタジオOBのカメラ

マンが多くなってきた事です。この事は、大切にスタッフを育てる事が、将来の代官山スタジオのお客様を育てる事でもあるという事を示しています。

この事こそ、代官山スタジオが最も重要視している部分です。

撮影レンタルスタジオで働く沢山のスタッフは、各人それぞれに働くという事の価値観が違う形で存在していると思います。しかし、少なくとも写真が好きで、写真から何かを見出したり、写真を通して何かを伝えたりしたいと思っている人達の集まりであると考えています。

更に言えば、ただ単に写真好きな人が写真を撮るだけであるのなら、別にこれ程までに過酷な労働を少なくとも出来る事であり、それでも尚撮影レンタルスタジオで働きたいというのは、もっと高いレベルのものを吸収したいという意味があるからではないでしょうか。

スタジオスタッフがスタジオの仕事だけで満足してしまえば、ライトマン（照明さん）か、有能なアシスタントで終わってしまいます（プロカメラマンのアシスタントになったとしても同じ事です）。ライトマンにしろ、アシスタントにしろ、それを一つの職業としてプロフェッショナルになれる方々もいらっしやいます。しかし、それだけでは、皆さんの夢であるプロカメラマンまでたどり着く事が出来ません。

撮影レンタルスタジオで働くという事は、最新の撮影を見ることが出来、最新、最高の機材を使うことが出来、スタジオを使って作品をつくる事が出来、写真について話の出来る仲間がいて・・・と、やはり他の世界では得る事の出来ない、計り知れない程のメリットが有ります。

逆に、いざスタジオを出てしまえば機材を使うにも、スタジオを使うにも何をしてもお金という問題がのしかかってきます。「スタジオで働いている時にしか出来ない事や、そのチャンスを最大に生かしているのか？」をしっかりと考えながら働かないと大切な時間を無駄に過ごしてしまう事になりかねません。

スタジオスタッフとして、何年間か働き、一人前と言われて卒業しても、学歴も資格も得ることが出来ません。現役のプロカメラマンと同じ土俵の上に乗るだけです。もちろん土俵に乗った以上は、プロカメラマンとして生活していけるまでの養成期間もゆとりもありません。翌日からプロカメラマンとして働いた分しか収入がなくなるのです。技術も作品もなければ営業に行った所で相手にされるはずもなく、したがって仕事は来るともありません。生きる為に別の仕事をし、その仕事の為に作品を撮る時間を追われる・・・まさに、悪循環を迎えます。努力賞はありません。結果だけが全てです。同情などかけてももらえません。

スタジオやロケ先でサポートした際に、仲良くしていただいたクライアントが、そのままの調子で、仕事をくれるのでは？というのは、スタジオスタッフやアシスタントが抱きやすい非常に甘い幻想であり、スタジオスタッフやアシスタントであったからこそ仲良くしていただけた事実を見ていない事から起こります。（プロカメラマンとスタジオスタッフは違う職種で、違う責任があります）

プロカメラマンとして通用する技術と認めてもらえる作品と営業努力だけが、収入を得る持ち駒です。（コネクションも重要ですが、そのようなパイプは持って数回です。駄目な写真を出してくるカメラマ

ンに仕事を振り続ける程、伊達や酔狂で仕事をしているクライアントはいません)

「どんなに有能なスタジオスタッフでも、三流カメラマンの足元に遠く及ばない」と言われる所以はここにあります。(本来プロカメラマンに一流も三流も存在しません。プロカメラマンであるかないかだけです)

二年、三年とスタジオスタッフとしてプロの現場で働く事によって、あたかも自分がカメラマンと同じレベルで働いていると勘違いしてしまうことが、当たり前のようにあります。一生懸命働いている程陥りやすい現象でもあります。

どれ程アシスタントとしての技術を持っていても、評価をされたとしても、一枚の写真に対して責任を持って生きているプロカメラマンとは、比較されるステージそのものが違います。

仕事の話に置き換えると、挨拶のたった一言が、遅刻の一回が自分の評価に直接つながってきます。

メイク待ちをしている間の過ごし方一つをとっても、それを有効に生かしているのか？フロント(受け付け)に座っているとき、スタッフルームにいるとき、仕事が済んでプライベートタイムになってから……

時間だけは誰にも分け隔てなく平等に与えられます。どう過ごすかは、それぞれ本人次第なのです。

時間が無い、お金が無いと言う事はご法度です。やりたいことの為には、誰もが時間もお金も自然につくります。それが出来ないというのは、やりたくない、もしくは、そこまでの情熱がないという事の言い訳に過ぎません。

また、写真を撮るということは、単純に楽しいだけでなく、非常に大変で面倒くさい事も多々あります。露出や照明が気になって、ファインダー画面に集中出来ない事があります。こんな状態では、いい写真が撮れるはずはありません。シャッターチャンスに集中出来るように、他の要素に関して頭を使わなくともコントロールできる自分を作り上げなければ、いつまでたってもこの問題は解決出来ません。

スタジオでの撮影サポートの仕方も、ここまで見据えたやり方(カメラマンはシャッターを押すだけで、後の部分を全てサポートできる力)が出来ようになって欲しいと考えています。それは、自分自身が撮影する時に必ず生かされてくるからです。

撮影レンタルスタジオで働くという事は、労働時間が非常に不規則です。朝早いスタートの撮影もあれば、夜中(場合によっては朝まで)までかかる撮影もあり、24時間拘束されているような状態でもあります。そして体力も必要です。体が資本の仕事でもあります。

一人前になっていく過程では、厳しく指導されることも当たり前のようにあります。もちろん正社員(社会人)として働くわけですから、遅刻をしない、挨拶をきちんとする等、身につけなければならない事は徹底的に叩き込まれます。

そのような中でも常にスタッフが一生懸命前向きに働きながらスタジオ撮影の技術をマスターし、それだけでなく同時に一人前の写真家としての修行を積んでいく事が出来るスタジオ。

そんなスタジオを代官山スタジオは目指しています。

<会社面接にあたって>

毎年多くの方が、写真学校（専門学校や大学）を経て入社されてきますが、実際のところ数年間何を学んできたのだろう？と思わざるを得ない事が多いです。

シャッタースピードと絞りの組み合わせを即答する事が出来ない。それに対する補正を指示すると分らない。フィルムの種類やその違いも知らない。カメラの種類もフォーマットの違いも知らない。レンズシャッターとフォーカルプレーンシャッターの違いも知らない。ストロボ光と定常光の違いが分らない。

プロの現場が、ほぼ100%デジタルカメラで撮影をしている時代に、デジタルカメラをはじめ、パソコンやアプリケーションソフトを満足に触った事がない。

それでいてプロカメラマンを目指しているというのは、あまりにも矛盾した行為だと思います。

スタジオ（会社）にしかない機材や仕事の内容は、会社で教えるべき事です。全力を挙げて教えます。しかし、仮にも「写真で生きていく」ことを目指し、撮影レンタルスタジオに就職しようと思うのであれば、最低限知っておくべき事（写真入門書やカメラ雑誌で、分かり易く細かく覚える事が出来ます）は、自ら学んできてから、入社していただきたいと思います。

また、同様に写真の専門学校をストレートで出たとすれば少なくとも20歳です。一人前の成人です。その成人として、20年間以上生きてきたなりの社会との接し方が出来て欲しいという事も併せて考えていただきたいと思います。

「きちんとあいさつ・返事が出来る」、「遅刻をしない」、「同じ注意を二回されない」、「一生懸命頑張る」これらは、小学校から徹底的に言われ続けてきている事です。出来ない方が恥ずかしいのです。

このような常識を身に付けた上で、その自分が何を出来るのだろうか？というところで入社していただきたいと思います。

<最後に>

代官山スタジオは、最先端であると自負しています。一流のお客様を相手にしているスタッフにも、その世界を目指して努力し続けている姿をお客様に見せて欲しいと求めています。

夢の途中であるスタジオスタッフである間に、「よくやった。満足しているよ。もう大丈夫。」という言葉が出るわけではありません。目指している先があるから、お気軽な夢（夢想）を語りません。

夢に向かっている途中経過を必死に頑張っている。それだけで幸せなはずです。

OBになって、プロカメラマンになって、「夢を叶えたよ」って顔を出してくれた時、仕事で代官山スタジオを利用してくれた時、その時こそはじめて心からおめでとうって言いたいのです。

代官山スタジオでは、第一線の現場で働く事で、実に様々な事を身につけるチャンスがあります。しかし、ただ漫然と一生懸命働いてもそのチャンスをモノに出来るわけではありません。一生懸命のベクトルがずれていれば、どんなに頑張っても良い結果を導くことは出来ません。

「相手の事を考える」・「知識」・「技術」の裏打ちのない個性なんてものは、単なる厄介者でしかありません。総てを成立させて欲しいと思います。

それぞれの個性は存分に発揮していただきたいと思います。**写真は藝術なのです**から。

マニュアル化した杓子定規なスタッフを育てる気は、毛頭ありません。しかし、「個性とは常識の上に乗っかっているもの」という事は知って欲しいと思います。

会社で働くという事や、社会常識を身につけると言う事は、個性の埋没や迎合とイコールではありません。

自分を譲る必要はどこにもありませんし、譲れるものでもありません。もし、そのように感じる事があったとするのなら、本人のその個性がそれだけのものだったという事です。

個性は磨いていかないと本物の光を発しません。常識をわきまえ、人の意見も考慮しながら、自らの頑張りを加え、磨き続けて欲しいと思います。

その上で自分らしさを大いに全力で発揮して欲しいと願っています。

身につけた事も、経験した事もない事に対して、「自分には無理」とか、「これは自分のスタイルには合わない」等と判断する事は、未熟さであったり、寛容度の低さであったりします。

やってみてから判断しても遅くありません。いえ、やってみないと何も手に入りません。経験が無駄になる事は決してありません。むしろ、経験の裏打ちのない考えなど単なる空論（絵空事）です。

プロカメラマンになりたいという願いを現実の形とする為に必要な事柄である「知識」「技術」「意識」を身につけ、それを自らの写真に反映し、存分に思い通りの写真を撮り、将来的には、その写真で食べてもらいたいと思います。

やる気には応えます。甘えや逃げは許しません。只それだけです。

プロカメラマンになる夢の為のたった数年間、脇目も振らず、がむしゃらに頑張ってみてはどうでしょうか？

代官山スタジオで一生懸命過ごす数年間の経験は、その後の人生に大きな自信と影響を与えるはずで

やり遂げてみせる！そんな強い意志と、

課題やスキルアップに前向きに楽しみながら立ち向かう！

結果を出す事で自信を持てる自分になる！

そのようなスタッフを求めています。

平成22年4月

(株)ユーアール スタジオ事業部

事業本部マネージャー 木下

会社概要

- [名称] 株式会社ユーアール
 スタジオ事業部
- [部門] 代官山スタジオ (代官山営業所)
 中目黒スタジオ (中目黒営業所)
 VIEW スタジオ
 スタジオスタンダード (世田谷営業所)
 スタジオ ROCK (白金営業所)
 代官山ロケーションサービス
 キカク
 制作室

* 太文字の部門が代官山スタジオのスタッフが勤務する部門です。

[設立] 1986年5月

[資本金] 1000万円

[売上高] 6億円

[代表者] 佐藤喜一

[社員数] 80名

[提携企業] (株) PIC 光洋

[スタジオ数] 代官山スタジオ (5面)
 中目黒スタジオ (2面)
 VIEW スタジオ
 STUDIO 6
 スタジオスタンダード (4面)
 スタジオ ROCK (3面) 合計16面

[寮設備] 代官山三軒茶屋研修センター

会社沿革

1986年	5月	代官山スタジオ 竣工
1999年	2月	スタジオ ROCK 運営開始
2002年	4月	ロケーションサービス 設立
2003年	3月	企画制作室 設立
2003年	9月	代官山スタジオ5 s t 増設
2004年	3月	中目黒スタジオ 竣工
2005年	4月	VIEW スタジオ 竣工
2008年	6月	第6スタジオ 竣工
2008年	7月	(株)光洋カラー 業務提携
		* 後社名をPIC光洋に変更
2008年	12月	スタジオスタンダード 運営開始
2009年	3月	代官山スタジオ三軒茶屋研修センター(寮) 開設
2010年	4月	スタンダード成城南 竣工